



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.427 No. 3987



東京電車で、JR東労組から
国労に復帰した組合員に対して、
JR東労・革マルによる組織的・
計画的な集団暴行事件が繰り返さ
れている。約二カ月に渡って繰り
返された集団暴行は、四月七日、
当該の国労組合員が全治七日間の
負傷を受ける事件にエスカレート
した。これに対し国労は、四月十
九日、東京地裁に、暴力行為など
の禁止を求める仮処分の申立てを
行なった。

「使い捨て」に怯 えるJR東労組

旧動労・革マルの本質は何ら変
わっていない。これは、JR東労
組が、危機にかられ、余裕を失っ
ていることを示す極めて象徴的な
事件である。彼らは明らかに怯え
ているのだ。当局の懐に逃げ込ん
で、奴隷となって生きる道を選ん
だ以上、いつ打ち捨てられるも、
それを決めるのは当局の側だ。西
から始まった革マル切り捨ての波
は、確実に東日本におしよせつつ
ある。JR東日本の当局内でも、
革マルに対する憎悪の感情を隠さ
ない部分が多数生まれている。東

暴力事件の概要 はこうだ！

事件の概要は、国労発行の情報
等によると次のとおりである。二

京電区での事件は、こうした状
況を背景とした危機感の表出に他
ならない。

会社公認の 暴力行為？

なっているところを、いきなり仕
業報告書を奪い取り、丸めて投げ
付ける等の組織的な脅迫を続けた。
そしてついに、四月七日には、乗
務終了後三時間以上にわたる脅迫の
上、右手に全治七日間の負傷を負
わせるに至ったというのだ。

しかも、この二カ月間、東京電
車区当局は、見て見ぬ振りをして、
職場内で行なわれているこれらの
行為を全て放置した。驚くことに、
助役らは、自らの責任回避のため
だけに、たまにやって来ては「あ
まり大きい声をださないでよ」「
ここでやらないで」等述べるのみ

本性をあらわにした JR総連暴行

月十四日、東京電車区所属JR東
労組合員が国労に復帰した。これ
に対しJR東労は直ちに、分会機
関紙に「奴の頭の構造を矯正する」
等書きたて、攻撃を開始した。連
日のように勤務を待ち構えて多数
でとり囲み「てめえ辞めろ！何し
に出てきた」「辞めるまでやるか
らな。つぶすまでやめない！」等
大声でつるし上げ、乗務鞆を投げ
付け、胸ぐらをつかみ、座ってい
る椅子を蹴りつけ机を叩き、ある
いは、終了点呼で次作業確認を行

で、すぎ放題にやらせたのである。
日常的に、動労千葉に対しては、
冷静に話していた一言の発言をと
らえては、「暴言」とか「不規則
発言」と称してボナスカットを
行い、争議のときすら、スト破り
行為に一言抗議しただけで処分し
ていることを考えれば、会社ぐる
み、会社公認でやった暴力行為と
しか言いようがない。まさに、J
R東労組もJR当局も末期症状で
ある。

東京だけのこと ではない！

しかし、これは何も東京だけの
ことではない。千葉でも革マル・
永島が、助役の胸ぐらをつかんで
ボタンが引きちぎれるまで振り回
し、数人がかりでも抑えつけられ
ないほど暴れまわり、しかも乗務
を放棄して帰ってしまった事件が
発生した。この時に千葉支社当局
は、何と、「助役の側にも問題が
あった」と助役を処分したのだ！
もはやJR当局もJR総連・革
マルも、何ごとにつけ理性的な判
断ひとつできなくなってしまうて
いると言うことだ。結局革マルは、
かつて動労千葉に対してやったよ
うに、暴力による恐怖だけが一切
の問題解決の手段となる。事態は
ここまで来ている。瓦解の日はそ
こまで迫っている。「JR体制」
を粉砕しよう！

朝鮮侵略阻止
日本の核武装化反対
4.23闘争に決起 旗を掲げ!!



JR総連革マル打倒！一掃！ JR体制粉砕！反転攻勢